

印刷業界の新技术情報を三美印刷がお届けするメールニュース

# sanbi-i-com (No.149)

## 紙なら安心

### — 情報の固定化がもたらす信頼性 —

前回に引き続き今回も「紙媒体の弱みは強み」がテーマです。前は、「双方向のやり取りができない」という弱みは「本質的に安全」という強みになっているという見方をご紹介いたしました。今回は、「書き換え・更新が困難」という弱みは「情報の固定化が信頼性をもたらす」という強みになっているという見方を取り上げます。また、前回の補足として、ネットの危険性に関する最近の動向もご紹介いたします。

#### ■ 情報の固定化がもたらす信頼性 ～スピードか正確さか～

ブックマークしていたウェブサイトを久しぶりに再訪してみると、目的のページがなくなっていたり、全然違う内容に書き換えられていたりといったことがままあります。こんなことならせめてプリントアウトしておけばよかったと悔やんでも後の祭りです、もう読めません。



サイトの作り手側に見れば、悪気があってそうしている訳ではなく、削除や上書きが簡単にできるウェブの特性を生かし、常にサイトを整理整頓して最新情報にアップデートしようと努力しているだけなのですが、過去にあったコンテンツを再読したかった人にとっては残念なことになってしまいます。

ウェブサイト上の文章を変えたい場合にやることといえば、キーボードで文章を打ち、アップロードして上書きするだけです。簡単であり、手間もコストもほとんど掛かりません。これはウェブメディアの長所です。

一方、紙の本の書き換えは、次節でご説明するように難しく、ほぼできません。これは紙の短所です。

ところがこの長短は、前回ご紹介した Andrew Losowsky 氏の見方によれば、「情報の信頼性」という観点に立つと逆になります。更新が容易なメディア、常に更新を怠らないように努めているメディアでは、

どうしても情報が固定化されにくく、冒頭に挙げたウェブサイトの例のように、過去の情報が消されたり改変されたりするリスクがあります。一方の紙媒体は基本的には更新ができませんので、インクを紙に乗せればそこで固定です。本そのものを廃棄したり紛失したりしてしまわない限り、情報はそこにそのまま残りますので、記録としての不変性、信頼性の高いものになります。これは紙媒体の長所の一つと言えるでしょう。

また、更新が容易なメディアと更新ができないメディアでは、自ずと後者の方が、間違ってしまったも直せない以上、情報を載せる際の正確性のチェックに慎重、真剣になります。前者では、書籍作りにおける著者、編集者、印刷会社等による校正に相当する作業に時間をかけるよりも、自ずと「スピード優先でまず載せる。間違っていたら直せばよい」ということになりがちです。

このためか、筆者の印象ですが、書籍は誤字が少ないのに、ネットは誤字が多く、特にチェック無しで書き込みができる SNS に至っては、わざと間違っていると思いきものを除いてもなお誤字だらけになっています。このように誤字ひとつ取っても、更新ができない紙媒体の方が信頼性は高くなっています。

## ■ 紙の本の書き換え・更新は難しい

印刷・製本後の本を直すとするれば、主な方法としては以下が考えられます。

- ・シール貼り： 直したい箇所の上に訂正した内容を印刷したシールを貼る。
- ・一丁切り替え： 直したいページを切り取り、訂正したページを印刷して貼り付ける。
- ・くるみ直し（並製本あじろ綴じの場合）： 表紙を取り除き（本をいったん壊し）、直したい折丁

を刷り直して差し替え、表紙をくるみ直す。

いずれも相当な手間とコストがかかるやり方ばかりです。このため、本そのものを加工して直すことは諦めて、「正誤表を本に差し込む」で済ますことが多いのが実情です。結局、紙の本の書き換え・更新は、やってやれないことはないものの、現実的には「ほぼできない」と理解してしまっても差し支えありません。

## ■ 前回の補足： ネットの危険性 ～定番の対策が破られている～

インターネットの危険性に対して、一般個人のレベルで取られている定番の対策といえば、以下の3つが挙げられます。

- ① ウィルス対策ソフトを導入する
- ② Windows の場合、Windows Update を実行する
- ③ 怪しいサイトにアクセスしない。怪しいメールに反応しない。

ところが最近では、攻撃者の手口が巧妙化してきており、「これらの対策だけではもはや安全とは言えない」との意見をよく目にするようになってきました。

例えば①については、ウィルス対策ソフトで検出できない不正プログラムが増えており、セキュリティソフトで有名なシマンテックの上級副社長、ブライアン・ダイ氏に至っては、「ウィルス対策ソフトは死んだ」、「ウィルス対策ソフトでは、サイバー攻撃の 45%程度しか食い止められていない」とまで発言しています（発言の詳細は以下の記事をご参照ください）。

<http://www.newsweekjapan.jp/stories/business/2014/05/post-3271.php>

②については、ソフトの脆弱性が発見されてから修正がなされるまでの時間差を利用して脆弱性を突いてくるゼロデイ攻撃があるため、Update を実行していても間に合わないことがあり、実際にネットバンキングの不正送金等の被害が発生しています。

③については、本物と見分けがつかないように作られた「なりすましサイト」や本物のサイトを悪意あるサイトに変えてしまう「サイト改ざん」があります。

本物そっくりのサイトは、フィッシング詐欺への注意

を喚起する告知文まで本物と同じですので、騙されてしまう人がいても不思議ではありません。



なりすましサイトは上の絵のように URL が違うこと等で見破れることもありますが、サイト改ざんの場合は、見破るのは難しいかもしれません。個人が気を付けて「普段利用している信用できるサイトにしかアクセスしない」を励行したとしても安全と言い切れないのはこのためです。

様々な不正アクセス事件の事例については、以下のページで一覧できます。セキュリティ対策の製品・サービスを提供している会社（つまりこの道のプロの会社）がマルウェアに感染したり、サイトを改ざんされたりしている例すらいくつか散見されます。

<http://www.security-next.com/category/cat191/cat27>

前回の繰り返しとなりますが、紙・印刷物は片方向の情報伝達手段ですので、上記のような危険とは無縁であり、本質的に安全な媒体です。

以上

（第 149 回： 2015 年 1 月 26 日）